

平成30年度 今治市立図書館 指定管理者モニタリング結果

施設名	今治市立中央図書館、今治市立波方図書館、今治市立大西図書館、今治市立大三島図書館
所在地	今治市常盤町5丁目203番地2、今治市波方町樋口甲72番地1、今治市大西町宮脇甲506番地の1、今治市大三島町宮浦5713番地
指定管理者	<p>名称 TRC今治図書館サポート</p> <p>代表者 株式会社図書館流通センター 代表取締役 細川 博史 四国通建株式会社 代表取締役 阿部 健</p> <p>住所 東京都文京区大塚三丁目1番1号 愛媛県今治市南大門町一丁目1番地の15</p>
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、利用者アンケート、指定管理者へのヒアリング等により把握しました。その後、指定管理業務の課題ごとに、指定管理者による自己評価及び市による評価結果を取りまとめました。
担当部課(問合せ先)	<p>今治市教育委員会事務局 社会教育課 図書情報サービス係</p> <p>TEL:0898-36-1602</p> <p>E-mail:shakyou@imabari-city.jp</p>

評価内容

課題	指定管理者自己評価	市による評価
総則	<p>施設の目的や基本方針からはずれることなく運営をしました。開館日、開館時間も適切に実行しました。</p>	<p>図書館の目的や基本方針などを理解し、関係条例、規則に基づき、適正に管理運営されている。長期休館等の際の返却日や受取待期間の調整など、利用者の公平性に配慮した管理・運営がされている。事業計画書に記載された事業だけでなく、市からの要請や関係団体の要望等を受け、また、市の課題に関するテーマについて、自主的に取り扱った展示を行うなど、柔軟に事業が実施された。夏季にグリーンカーテンを設置するなど、省エネ対策や環境に配慮された。単独館は敷地内禁煙、複合館は施設内禁煙の実施が継続された。</p>
	<p>全館 入館者数・貸出冊数いずれも、増加しました。実施した事業の多様化などが、入館者・冊数 増に、繋がったと考えます。</p>	<p>アンケート調査により、利用者の満足度・要望等を把握しようとしている。人口減の影響から登録者数は減少傾向ではあるが、貸出人数・貸出資料数・来館者数については増加に転じている。電子図書館など結果的に既存の指標が減少する可能性のある事業にも取り組んでいる。図書館の運営評価は利用者数・貸出資料数の伸びだけで判断されるべきものではなく、図書館利用者の満足度を高め、利用したことがない市民の認知度を高めるように、状況分析・事業計画の立案を期待する。</p>
	<p>入出金に関するトラブルはありませんでした。予算については節約に努め、図書費については予算以上の購入をいたしました。</p>	<p>協議により、会計の独立について本社経理システムの利用を認めている。報告書外の経理書類について、提供依頼した際に速やかに対応されている。独自に図書館振興財団の助成金を活用して貴重な郷土資料の掘り起こしを継続実施した。予算計画と決算状況で大きく乖離している項目がある。事業計画及び予算計画策定のときに熟考されたい。市の指定する資料費よりも175,441円超過して資料の購入を実施した。</p>
	<p>配員に無理のない職場環境を整えています。そのため、職員の有給休暇取得率も高く、勤務日数、勤務時間も適正に管理されています。出張研修も積極的に行い、各個人のスキルアップにつながっています。</p>	<p>障害者雇用に関しては基準を上回る雇用がなされている。職員の対応については全館満足が71.6%、不満は全体で1.0%と満足度は高い水準であった。組織内・外を問わず多種の研修を実施しており、職員のスキルアップにつながっている。</p>

	事故及び災害等発生時の対応	B	大きな事故もなく、安全な環境を保つことができました。	B	図書館指定管理業務の一般的な危機管理マニュアルは作成しているようであるが、それを今治市立図書館の個別の館にあてはめた具体的なマニュアル作製と研修を実施されたい。
	個人情報保護	A	個人情報の漏えいは1件もありませんでした。個人情報保護監査を各館ごとに適正に行いました。また、プライバシーマークのテストを各人適正に行いました。	A	代表団体であるTRCはプライバシーマークを取得し、毎年本社より個人情報の適正管理の社内監査を実施しており、全職員を対象に「個人情報保護研修」を実施している。チェックリスト作成、マニュアル整備等も行い、個人情報の管理体制が整備されている。
	課題		指定管理者自己評価		市による評価
基本的業務	自主事業	A	図書館振興財団の助成金で実施中の「古文書『国府叢書』の翻刻・デジタル化・公開・刊行事業」も、公開に向け継続して行いました。また、「タオルびと制作プロジェクト」も、タオル産業の貴重な記録遺産として継続して行いました。	A	全館で年間のべ390あまりの多様な自主事業を実施している。 図書館振興財団の助成金を活用した『国府叢書』の翻刻・電子化事業を継続し、また、『タオルびと』制作プロジェクトとして、毎月の情報発信や年に1度の「タオルびと」講演会を継続実施している。 各館で歴史講座を開設し、地元CATVとタイアップで放映するなど、地元根ざした活動を行っていることを評価する。 充実した子ども向け事業の実践により、中央図書館が「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰を受けた。(平成29年度報告の実績を基に県の推薦を受け、平成30年度4月に受賞) 参考:H28年度にも大西図書館が受賞
	地域団体との連携	A	「タオルびと制作プロジェクト」は城西大学および地元タオル企業様と連携して進めています。また、図書館振興財団の助成事業は愛媛大学、今治史談会様協力のもとに実施しました。国際ソロプチミスト今治様とは坊ちゃん初版本等の展示において協力させていただき継続展示をしています。また、中央館2階の参考コーナーにおける平和展示は「今治市の戦災を記録する会」様と協力のもと継続しています。新大学との連携も積極的に行いました。その他、継続事業におきましても諸団体様とは良好な関係のもと実施しています。	A	地元の団体や地元大学・短期大学、その他様々な団体と協力・連携して事業を行っている。「タオルびと制作プロジェクト」、「古文書『国府叢書』の翻刻・デジタル化・公開・刊行事業」、短期大学学生による「おたのしみ会」、大学による展示・講座などの連携事業が評価できる。
	行政財産の目的外使用許可手続業務	A	中央館と波方館における自動販売機の設置、および中央館における「ぶっくんのおみせ」の手続きを適正に行いました。	A	適正に行政財産の目的外使用の手続きが行われた。 中央図書館と波方図書館に設置してある「水分補給コーナー」、中央館の「ぶっくんのおみせ」など利用者へのサービスの向上に取り組んでいる。 得られた収益についても適切に図書館業務に活用し、市民に還元されている。
	事故・苦情	B	利用者様のご意見に対しては「ご意見箱」を設置し、すべてのご意見にたいする回答を常時閲覧できるようにしています。	B	事故の情報や苦情についての情報は、速やかに職員間で共有して遺漏のないように対処されたい。 意見箱に寄せられた苦情・要望等については、柔軟な対応を行っている。 市への報告等により情報共有を行い、問題の発生を最小限にとどめるよう努めている。
	課題		指定管理者自己評価		市による評価
管理業務	一般管理業務	A	業務基準表に基づき適正に管理しました。また特段の苦情等もありませんでした。	B	中央図書館では、剪定・刈込を年4回(基準表は年1回)実施し、美観または衛生上良好な状態を保った。 四国通達の巡回など仕様以上の点検を実施している。 施設の老朽化により、対応事項が多くなっているが、市からの要請にも誠実に対応している。特殊簡易公衆電話の設置も継続されている。 経費的な制約等修繕に着手できない場合は、速やかに市と協議されたい。
	修繕管理業務	A	専門技術者のもとに適正に管理を行い、大きな事故等はありませんでした。	B	施設の老朽化が進む中、利用者の安全を考慮し、市と協議の上、修繕を効果的に進める必要がある。 連続して故障した中央図書館の自動ドアの修理にも素早く対応し、利用者の利便性を維持した。 ソファの張替については計画的に修繕を進めている。
	備品管理業務	A	今期も、故障などで、必要とされるものを購入しました。廃棄も1点だけで、備品管理も適切に行いました。	B	応急的な修繕等や日常点検等により、大きな事故につにつながらないよう努めている。 今後、施設の老朽化が進む中、市と協議しながら修繕箇所の優先順位を決める必要がある。

課題		指定管理者自己評価	市による評価
利用業務	利用業務	B 運営上のトラブルも適切に、対応し、管理することができました。	B 多彩なイベント・講座を開催するとともに、FMラヂオバリバリなど、積極的な広報活動により図書館への集客と活動の周知が図られた。地域の課題をテーマにした展示など、司書の企画力によるPR効果も十分に発揮された。らいぶらりいや利用案内に加え、図書館マナーブックの作成・配布を継続した。電子図書館に立川文庫などの地域資料を電子化・掲載し、貴重な資料を展示するだけでなく、広く利用できるようにしている。ブックシャワーの無料化継続及び大三島図書館への新設など、利用促進が図られた。
	利用者アンケート	A 本年から、来館者アンケートに加え、非来館者アンケートも行い、図書館に対する基本的な認知度を知らせていただきました。また昨年を上回る1500人以上の方にご協力いただきました。	B 継続調査項目に加え、リクエスト制度の認知度について調査し報告書は図書館サイトで公表している。図書館の運営方法を策定するための重要な調査であることから、実施時期・期間について再考された。

課題		指定管理者自己評価	市による評価
運営業務	電算システム運営業務	A システムに異常が発生した場合は専門業者と早急に連絡をとり、利用者へのご不便をおかけすることはありませんでした。	B システムに関する業務委託は指定管理者以外であるため、システム上のトラブルがあった場合や改修が必要な場合には速やかに対応できるよう、定期的に三者協議を行っている。プライバシーマーク取得企業であることを活かし、適切な対応がされている。
	図書館資料運営業務	A 指定の資料購入費を、上回る購入しました。また、選書、廃棄等も適正に行い、リサイクル・ブックフェアも混乱もなく行うことができました。	B 長期督促者などに直接訪問し返却を促すなど、適切に督促業務が実施されている。貴重資料については、郷土資料の電子化や収集した郷土資料の細やかな書誌作成など、基本と発展両面に積極的な運営がなされている。引き続き、国分叢書の電子化により貴重な郷土資料の収集保存を推進した。資料収集に関しては概ね計画的に執行されている。除籍した資料について、リサイクル頒布会を開催して希望者に配布することで有効活用をしている。
	その他の運営業務	B 「今治市の戦災を記録する会」様と平和展示コーナーを継続しています。また、新大学との、連携を積極的に行いました。	B 愛媛新聞の連載に合わせ、スペシャル対談「かのうかりん×早見和真」を企画・実施するなどして視聴覚室の利用促進が図られた。「教科書展示会」など展示スペースで外部団体と連携して啓発・展示を実施している。図書館協議会が適正に開催された。

課題		指定管理者自己評価	市による評価
奉仕業務	一般奉仕業務	A 当年度のアンケート調査結果においても、7割以上の方がスタッフの対応にご満足いただいています。また、大きな不備等もなく、概ね順調に管理することができました。	B 一般的な奉仕業務の実施状況については概ね良好であると評価する。オンラインデータベースの利用が継続され、利用者への情報支援が充実している。レファレンスについては、事例の蓄積や的確なインタビューなど、より充実したサービスを期待する。著作権セミナーへの参加が計画されていたが、天候の都合により開催されなかった。
指定管理者の経営状態		提出された決算関係書類や過去年5年間の「貸借対照表」、「損益計算書」をもとに「経営分析指標」を算出したところ、収益性、安全性、効率性、成長性の各項目とも特に問題となる項目もなく、概ね良好であると判断する。	

## 総合コメント

指定管理者は施設の目的や基本方針などを理解し、関係条例、規則、業務仕様書に基づき、事業計画を立て、適切な業務管理・運営を実施していると評価する。

第3期初年となる事業実施であり、構成団体の変更があったこともあり、計画と実施にずれが生じている部分があったが、概ね安定した運営を行っている。その上で、タオルびと制作プロジェクトや、公益財団法人図書館振興財団の助成事業を活用した今治の郷土資料『国府叢書』の翻刻・電子化事業の継続、直木賞作家と高校生のコラボレーション企画、愛媛新聞での今治市出身作家の連載に対応した対談企画の実施、各館での尾道姉妹都市50周年記念企画など、自主事業に積極的に取り組んでいることを評価する。

中央図書館に加え、大三島図書館でのブックシャワーの無料提供やソファの張替え、指定額以上の資料購入など、自主事業等による収入を適切にサービスへと還元していることを評価する。

積極的なパブリシティや司書の専門性を活かした企画力により、中央図書館だけでなく地区館での企画においても、メディアへの露出が高い水準で継続しており、市民へのPRに加え、市外へのPRにも効果があったことを評価する。